

設楽発掘通信

No.18
平成28年
5月号

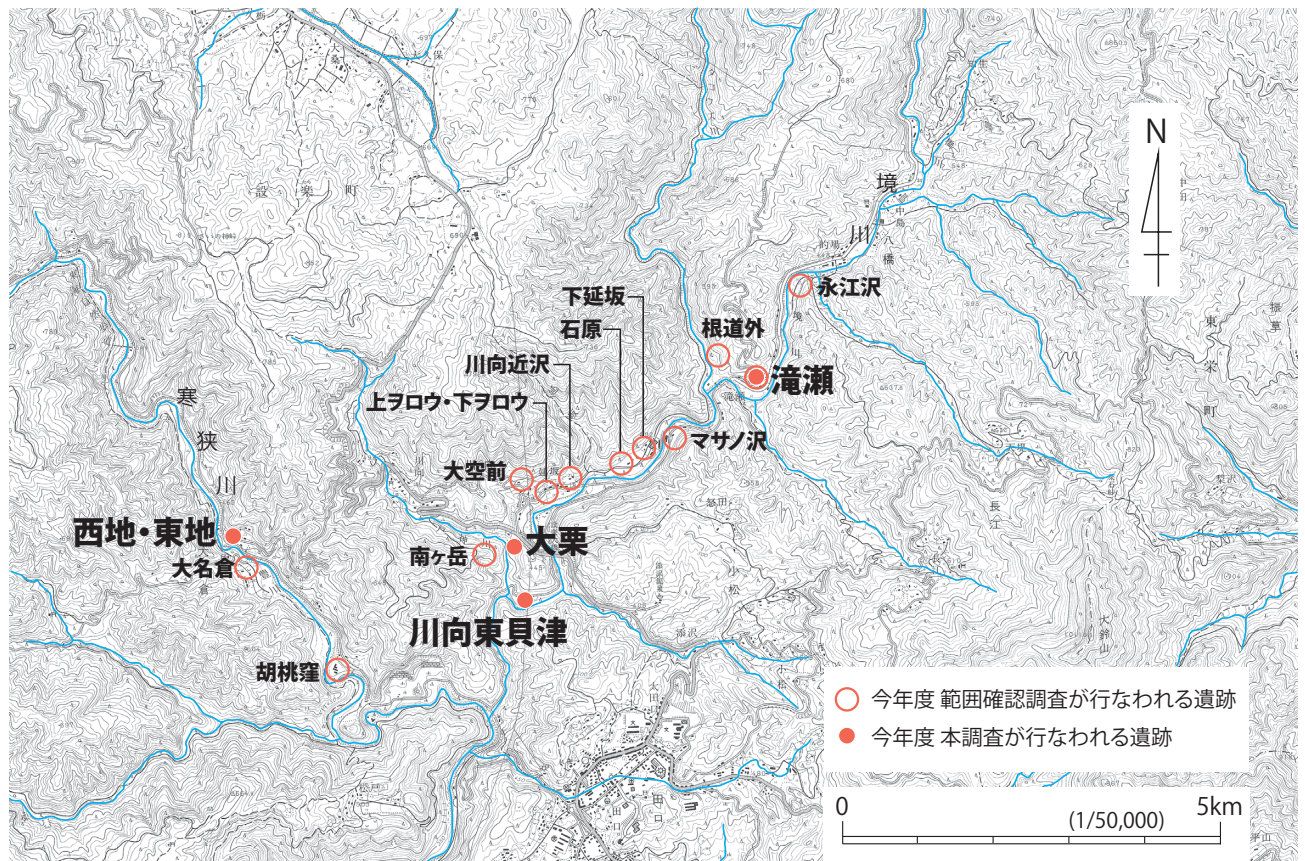
本年度も設楽ダム関連 発掘調査が始まります。

設楽ダム関連事業の工事予定地には多数の遺跡が知られていません。このうち工事によって現状が変更される部分は発掘調査を実施して、記録を残す事が、文化財保護法によって義務付けられています。

設楽ダム関連の発掘調査は、愛知県埋蔵文化財センターが中心となって実施しておりますが、本年度は発掘調査が本格的に開始されて三年目にあたります。本年度は川向東貝津遺跡、大栗遺跡、滝瀬遺跡、西地・東地遺跡と四遺跡での本調査と、大名倉遺跡ほか十二遺跡での範囲確認調査が予定されています。常駐する調査員は九人となり、今までで最大規模の体制で臨みます。調査を円滑に行うには、地元の方々のご理解をいただく事が最も重要である事は言うまでもありません。何卒、よろしくお願ひします。

今年度も調査成果を本誌や地元説明会などの様々な機会を通じて、町民の皆様にお知らせする予定です。どうぞ、ご期待下さい。

(愛知県埋蔵文化財センター 池本正明)



平成 28 年度に発掘調査する遺跡の位置図 (国土地理院刊行 2 万 5 千分の 1 地形図「田口」を 50% に縮小)

成果報告会を終えて

去る、三月五日（土）に、設案町議場で、平成二十七年設案ダム関連発掘調査成果報告会『新設案発見伝2』を開催し、百三十五名の方々にご参加頂きました（写真1）。発掘調査を始め成果報告会の開催まで、埋蔵文化財事業にご配慮頂きました皆様にお礼申し上げます。この成果報告会配布資料は、「設案発掘通信」同様に、愛知県埋蔵文化財センターのホームページからダウンロードできますので、ご利用下さい。

現地での発掘調査は昨年十二月で終了しました。その後、出土遺物および記録類を埋蔵文化財センターに持ち帰り、各調査担当者を中心として、図面整理など、報告書作成に関わる作業の一部を行って参りました。また、併せて三月の成果報告会に向けて、出土した土器の接合・復元作業など、準備を進めてき



写真1 成果報告会の様子



写真2 笹平遺跡出土遺物
（左：鉢形土器、右：石製のお祀りの道具）



写真3 笹平遺跡土器棺墓
使用土器（弥生時代前期）
【右上：出土状況、その他：復元後】

ました。ここではこれら整理作業で明らかとなったことを、少しご紹介しました。
写真2の4は、小松地区の笹平遺跡出土資料です。写真2右は、大型石棒や岩偶岩版類などの石製品を集めた写真です。この笹平遺跡では、お祀りの道具として、土偶などの土製のものより、石製のものが多く使われていたことをあらためて確認することができました。写真2左は貯蔵穴と考えられる袋状土坑

から出土した土器です。小型の鉢形で、縄文時代後期初頭（約四千四百年前頃）の特徴である、J字の文様が見られます。

写真3は弥生時代前期（約二千五百年前頃）の土器棺墓で使われていた土器を復元しました。棺の身にした大型壺の胴部には孔が意図的にあけられていたことが判明しました。口縁部は一部が打ち割られており、そこに深鉢片を蓋として被せられたようです。蓋にしていた深鉢の破片は大きく二つあります。いずれも底部はなく、一つは全体の二分の一度、もう一つは全体の三分の一度の破片です。二つの破片は極めてよく似ていますが、接合する部分がありません。作り方などが極めて類似した二個体の破片が蓋として使われたようです。写真4は縄文時代晩期（今から二千九百年ほど前）の土器棺墓で



写真4 笹平遺跡の土器棺墓
（縄文時代晩期）
【左：復元後、右：出土状況】



写真5 滝瀬遺跡の集石跡出土土器
【上：出土状況、下：復元後】

す。上の土器は下半部が欠けていますが、上下を逆にして、下の土器と口縁部を合わせるように埋められていました。復元作業により、下の棺身にされた土器の形がさらによく分かるようになりました。
写真5は八橋地区の滝瀬遺跡出土資料です。滝瀬遺跡では、集石跡が十基見つかっており、そのうちの二基では、礫の上面に接して、上下逆の状態です。器が出土しました。この土器を復元したところ、口縁部が平らかな浅鉢であることが分かりました。文様などから、縄文時代中期中葉（今から五千年前頃）の土器と考えられます。
写真6は、川向地区の川向東貝津遺跡出土資料で、竪穴建物跡の床面で見つかった埋甕です。埋設時に底部が打ち欠かれています。この土器は、縄文時代中期後半（今から四千八百年前頃）とも考えられます。これも復元作業を行った結果、長方形の区画の両端で、口縁部が小さく波打つ深鉢であることが分かりました。区画は全部で八ヶ所あり、区画内には縄文が施されています。このように、発掘調査の成果に、さらに詳細な分析を行うには、その後の室内での整理調査が必要となります。現場での実地調査と室内での整理調査を通じて、当時のヒトの行動などをより明らかにしていきたいと思えます。



写真6 川向東貝津遺跡の埋甕（縄文時代中期）
【上：出土状況、下：復元後】

（愛知県埋蔵文化財センター 川添和暁）

平成二十八年度の発掘調査予定

本調査を行う四遺跡、範囲確認調査を行う十二遺跡の具体的な内容を表にまとめました。(川添和暁)

調査内容	No.	遺跡名	ふりがな	地区	遺跡の時期	遺跡の種類	県遺跡番号
範囲確認調査	2	大名倉遺跡	おおなぐら	大名倉	縄文、弥生、平安、戦国	散布地	700297
本調査	5	西地・東地遺跡	にしじ・ひがしじ	大名倉	縄文、平安、戦国	散布地	700152
範囲確認調査	8	胡桃窪遺跡	くるみくぼ	大名倉	縄文、平安、戦国	散布地	700158
本調査	19	大栗遺跡	おおぐり	川向	縄文、平安、戦国	散布地	700163
範囲確認調査	21	大空前遺跡	おおぞらまえ	川向	縄文、平安、戦国	散布地	700166
範囲確認調査	22	境川右岸で大空前遺跡の南側に位置する。上ヲロウ遺跡・下ヲロウ遺跡と一括して呼称する。今年度、初めて範囲確認調査を実施する予定。	かみおろう・しもおろう	川向	縄文、平安、戦国	散布地	700167
範囲確認調査	23	境川右岸で、谷筋の沢から続く小川を挟み、上ヲロウ・下ヲロウ遺跡の東側に位置する。今年度、初めて範囲確認調査を実施する予定。	かわむき・ちかざわ	川向	縄文、平安、戦国	散布地	700355
範囲確認調査	24	境川の右岸の河岸段丘上に位置し、延坂沢によって形成された扇状地地形の南西側が遺跡に重複する。今年度、初めて範囲確認調査を実施する予定。	いしはら	川向	縄文	散布地	700170
範囲確認調査	25	延坂沢の対面に所在し、この沢によって形成された扇状地地形の北東側が遺跡に重複する。今年度、初めて範囲確認調査を実施する予定。	しものべさか	川向	縄文、弥生、平安末、鎌倉	散布地	700171

本調査	27	川向東貝津遺跡	かわむきひがしがいつ	川向	縄文、平安末、鎌倉	散布地	700348
範囲確認調査	28	南ヶ岳遺跡	みなみがたけ	川向	縄文(平安)	散布地	700162
本調査と範囲確認調査	31	滝瀬遺跡	たきせ	八橋	縄文、室町、戦国	散布地	700174
範囲確認調査	32	根道外遺跡	ねみちそと	八橋	縄文	散布地	700173
範囲確認調査	38	永江沢遺跡	ながえざわ	八橋	縄文、鎌倉、室町	散布地	700175
範囲確認調査	41	マサノ沢遺跡	まさのさわ	小松	縄文、弥生	散布地	700172

設楽発掘通信 No.18 平成28年5月号

編集・発行 公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター



〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802の24
電話 (0567)674161【管理課】 4163【調査課】
ホームページ: <http://www.maibun.com>
Facebook: <https://www.facebook.com/maibunatchi>
Twitter: https://twitter.com/aichi_maibun

印刷・協力 安西工業株式会社